

AIの活用を学ぶ

総務産業常任委員会



温度 20℃± 0.5℃で一定
(坂城テクノセンター試験検査室)

総務産業常任委員会は、1月21日(火)坂城テクノセンターと松本市の県工業技術総合センターを視察研修した。

テクノセンターでは、試験・検査機器などの詳細な説明と各事業の実施状況について聞き取りを行った。今年度就任したセンター長からは、後継者問題、技術の継承、人材不足等町の製造業が抱える課題や展望を聞いた。

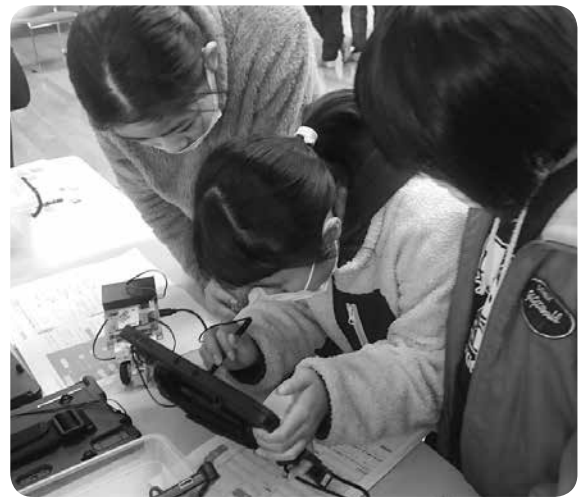
今後、新たな技術開発を進める上で、金属製3Dプリンターの導入も一つのテーマになるとのこと。

松本市の工業技術総合センターは、環境・情報部門と創業支援の役割を担う。昨年、新たに建設された「AI・IoT事業化開発センター」は、県施設初のZEB(実質ゼロエネルギービルディング)として、照明等の電力をすべて太陽光発電と蓄電設備で賄い、外部からのエネルギーを必要としない最先端の施設である。そこでは、IoT技術の導入、製品開発の事業化への支援について説明を聞いた。その技術・支援等は町内企業数社に活用されている。今回調査した両施設は、商工業振興を推し進める上で重要な役割を担うものであり、さらなる連携が望まれる。

(中島 新一)

ICT教育

社会文教常任委員会



これでうまくいくはずだけど…

社会文教常任委員会は、2月6日(木)県からICT教育の先端校に指定されている坂城小学校の取り組みを視察した。

ICTとは、インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジの略で教育部門においてはタブレットの活用、プログラミング教育などを指す。実際に参観したのは5年生の「プログラミング教材を使った自動車を作ろう」という授業であった。ミニチュアカーを「スタートさせ1メートル直

進」「サーキットのカーブで90度旋回」といったことをグループになった児童たちが話し合いながら試行錯誤を重ねプログラミングしていく。児童たちの前向きな姿勢、楽しそうに共同作業する様子は、指導する先生の好感の持てる態度とともに印象的であった。

ICT教育で一体何が変わるのか。今までの教育の主眼は「いかに大衆を標準化するか」であったが、標準的な仕事は機械が行う世界では機械とダブった能力は不要である(例えば自動運転、自動翻訳)。2000年に政府が策定した「ICT政策大綱」では「個々の生徒に最適な『教育』の提供」とある。しかし、その『教育』の内容がどのようなものなのかは、誰の頭にも明確な像が浮かんでいない。今後、真剣に考えるべき課題だと思ふ。

(栗田 隆)

坂城町の未来を考える

坂城中3年生による 模擬議会を開催

1月24日(金)、役場4階の議場で、坂城中学校3年生の生徒による模擬議会が開かれた。

西沢議長の議事進行のもと、6人の生徒が町の施策について質問し、山村町長ほか町の担当課長が答弁するという実際の町議会と同じ形式で行われた。

中学では、1学年次から総合的な学習を継続して実施しており、その一



環として、授業や職場体験を通じて感じた町への疑問や要望などを、生徒が実際の議会形式に則り質問したものである。

緊張した様子の中から、「坂城どんどんについて」「高齢者の交通対



策について」「病児・病後児保育について」「不法投棄防止について」「ばら祭りについて」「防災対策について」の6項目について堂々と質問した。

参加した生徒からは、「台風など有事の際は、油断のない丁寧な対応をしていただき、安心して住める町だと思った」「模擬議会に参加したことで毎日見るニュースや町からのお知らせに対して見方が変わった」などのほか、3年後に選挙権を持つことへも関心がいき、「自分の一票に責任が持てる大人になりたい」との感想も寄せられた。

研修報告

議員研修会を開催

「地方自治とは何か」 「地方議会と議員の役割」

触れ、環境活動家グレッタさんを例に、環境問題は現場で起きている地域問題であるとした。日本では過去の様々な公害問題を背景に、憲法には無い「環境権」を地方自治体が作り出したと説かれた。

市町村の合併問題では、明治期7万程の町村がその後の合併を経て、平成の大合併で1700余りにまで減少した。しかし、町や村の名前は無くなったも、そこにあった地域社会は依然として残って

いる。当町の27区にある公民館分館活動は大変素晴らしい取り組みと、評価された。

当町の町民憲章の中にある「いま、歴史の大きな進展の時を迎え」、その時に、私たちの役割が求められる存在でなければと、痛感した。

(滝沢 幸映)

※「地球市民」平和、環境、貧困など地球規模の課題解決に向け、地球に住む一員として考え行動する人々

町議会は、2月4日(火) NPO法人多摩住民自治研究所「議員の学校」学校長の池上洋道氏を講師に迎え議員研修会を開催した。

池上先生はフリーライターを経て、日野市職員として勤務。現場での豊富な経験を踏まえ、市町村が抱える問題点を明らかにし、その打開を目指す研究活動を行っている。

※講演は国連宣言された「地球市民」の考え方に

